



問 シルバー人材センター運営状況について

答 受注件数、受注額は年々増加している

平均寿命が延びて定年後も長くなり労働力人口が減っていく。元気な高齢者に働いてもらう。何歳になっても、働いて収入を得るといことは人生を豊かにするためにも必要では。



問 理事長である町長の見解は。
町長 シルバー会員の皆さんの就業に対する意欲も高まっていると捉えています。安全管理に十分注意して就労していただく環境づくりを進めていきたい。

問 運営状況は。

健康福祉課長 高齢者の生きがいつくりや健康増進を図るとともに長年培ってきた知識や経験を生かした雇用の場を提供し、地域社会の活性化を目的としています。平成29年度会員数は207名、受注額1億1,907万円、過去最高になりました。

問 元気で長く働いていただいた会員さんに慰労金制度を設けては。

健康福祉課長 県のシルバー人材センター、また近隣を確認したところ、慰労金の配布は行っていません。今後、10年勤続などを対象とした表彰規程について、理事会で協議・検討していきたいと考えています。



問 空家等対策計画の取組みについて

答 有効利用できる仕組みを整備していく

空家等の増加が大きな社会問題になっているが。

問 町の現状は。

生活安全課長 町の空家は84戸。空家になった主な理由は、「住んでいた人が死亡したため」、「相続等により取得したが、住む人がいないため」が多く、空家期間の長期化・管理不全状態に陥る可能性が高いと考えています。

問 対応と取組みは。

生活安全課長 空家等の所有者の意向を確認するとともに、利活用の促進につながる支援制度を検討し、有効利用できる仕組みを整備していきます。

問 まちづくりの観点から空家問題の見解を問う。

町長 空家等になった場合の適正管理・利活用・管理不全化した空家の解消に取り組み、町民が安心・安全で快適に暮らせる「まちづくり」を目指して進めていきたい。

